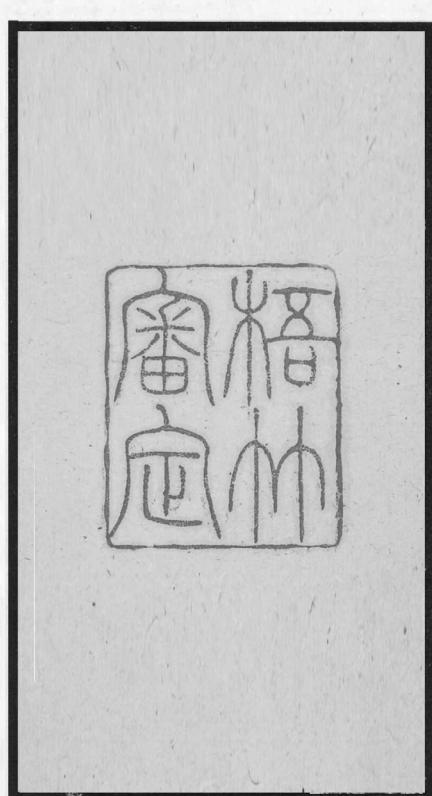
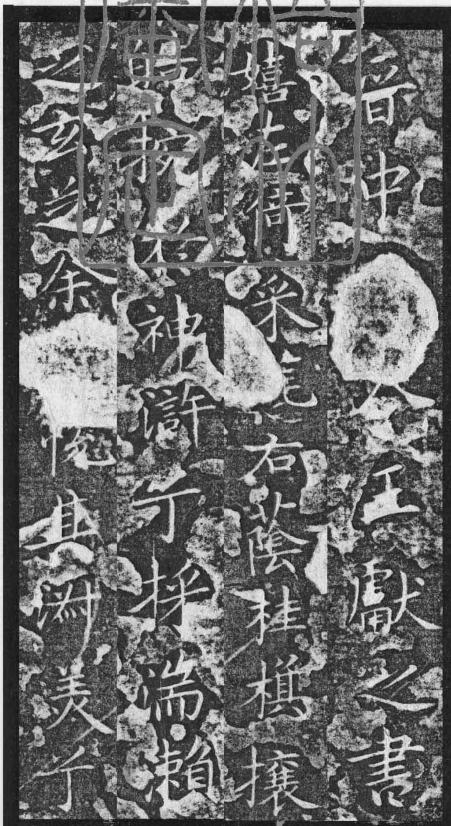


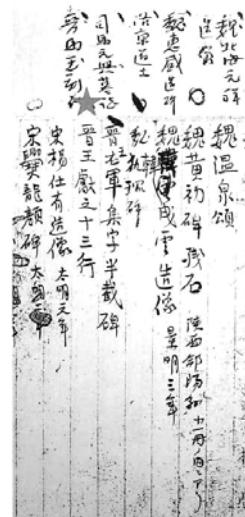
復元『玉版十三行』(梧竹堂法帖本)



# 「落ち穂拾い記」⑯

## 梧竹堂法帖（補）幻の『玉版十三行』

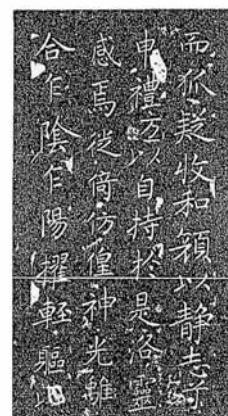
図①梧竹自筆の「梧竹堂法帖目録」中の  
「玉版十三行」記載部分



図②

### 書鑒

王獻之楷書玉版十三行  
中林梧竹藏本



図③  
五体法書中の「玉版十三行」臨書(部分)



2004年の展覧を機に、金沢のO氏所蔵の「梧竹堂法帖」は、徳島県立文学書道館に寄託されたようである。記憶が定かではないが、2012年前後に本野克彦さん（佐賀県小城出身の実業家）という方から電話で、「梧竹堂法帖」のことだと話があり、お目にかかることになった。お話しによれば、O氏所蔵の「梧竹堂法帖」を全て購入したと。就いては、これらの「梧竹堂法帖」を全部調べて目録図冊を制作したいとの依頼であった。購入された「梧竹堂法帖」は、全て佐賀の小城市立中林梧竹記念館に寄託してあるとのこと。再度「梧竹堂法帖」を丁寧に確認できることに興奮した。その作業の前に「梧竹堂法帖」をすべてを写真撮影し画像データにしていただきたいとお願いした。しばらくして、A4のカラープリント千五百余枚と画像データが送ってきた。剪装本は、書帙表紙を始めとして全ページ丁寧に写されており原帖を手にとるような感じで見ることができた。金石碑文を時代順に、更に王羲之等に関する帖は、別に分けた。小さな造像記や碑文までも正確な名称を付すように努めた。また小城の記念館まで数回出向き、原帖確認もした。記念館には、始めに言及した佐々木盛行氏所蔵の「梧竹翁の大型の手控え帖」（梧竹堂法帖目録を始めとして、北京滞在中の細

かな筆記メモ等）も寄託され、自由に確認することができた。その調査の一端を墨誌に「梧竹堂法帖考」として8回ほどにわたり紹介した。本野氏が入手された「梧竹堂法帖」と家蔵の二種を合わせれば、「梧竹堂法帖」は、ほぼ全てが揃うことになると日野俊顕（1929～2010）氏は、認識されていたようである。しかし手控え帖にある梧竹自筆の「梧竹堂法帖目録」を対照すると、王献之の書とされる「晋王献之十三行」一帖が、行方不明である（図①）。ところが明治後期の書道雑誌「書鑑」の中に家蔵の「興福寺断碑」や「梧竹堂法帖」中の「龍門造像記」「雲峰山題字」が掲載されていた。第七、八、九輯には、「王献之楷書玉版十三行」が中林梧竹藏本として影印されているのを見出した（図②）。後に刊行された梧竹臨書集である「五体法書」にも「十七帖」とともに「興福寺断碑」や「玉版十三行」が収録されている（図③）。書鑑誌の影印と家蔵の原刻拓本を基に、梧竹翁が秘蔵した行方不明の「梧竹堂法帖」中の「玉版十三行」の復元を試みた。それを右頁に示した。このコロナ禍、今年3月に本野克彦さん（88歳）は亡くなられた。

# 書道芸術院 令和の群像 (2021)



佐  
藤  
好  
美



第74回書道芸術院展 「楚中秋思」

「令和の群像」の原稿の依頼をいただき、ふと私はいつ書に興味をもったのか思い返してみました。小学2年生の頃、初めて習字の授業で先生に誉めていただき、字を書くことが好きになったような気がします。放課後、展覧会の作品を書いたり、夏休みなどはお弁当持参で学校に行き先生のご指導を受け、一日中書いていました。

高校生になってからは運動部に入り、書道部の生徒達のように練習は出来ませんでしたので、展覧会や学園祭などの時は、夜中に練習をし提出したことも懐しい思い出です。いつしか、書道は一生勉強したいと思うようになっていました。

そして、後に白扇書道会の門を叩き種谷扇舟先生、現在は萬城先生とお二人のご指

導をいただき今日に至ります。扇舟先生の最初の一言は「本物を見なさい」でした。「初めて習う人は良い物を見ないといけないよ」と、貴重な雁塔聖教序の拓本を教室に広げて下さいました。その時の感動は今でも鮮明に覚えています。先生のお蔭でたくさんの方々の拓本を見る事ができ、とても感謝しています。本物を見るということは、中国へ行って直接石碑を見るということに他なりません。しかし、今は石碑保護のために、お堂に入ったり、ガラスケースの中に入と直接見ることが出来ません。以前はすぐ側で見ることが出来、線の厳しさ、力強さ、ゆったりとした中のある鋭さ等等、本物の姿は格別でした。しかも、若い時に経験したその感動と興奮は何年たっても心に残つ

ております。

今私の課題は、臨書をどう作品に結びつけるかです。やはり、展覧会や美術館に出掛け、良い物を見て感動し楽しんで作品を書く。この繰り返しの中に、いつしか良い作品が出来ると信じて学び続けたいと思います。

掲載の作品は、「第74回書道芸術院展」において春華賞候補になった作品です。毎回試行錯誤の連続です。やはり書くしかありません。去年よりは少しは良い作品をとる思いで、リズムにのって無心で筆を走らせ表現出来た時は良い作品が出来るような気がします。毎日賞をいただいた作品も、この作品もこのような気持ちで書きました。

恩地春洋先生が「我々は作家集団である」「作家らしい作品創りを心がけ努力し、切磋琢磨するべきである」ということをお話しになりました。このお言葉を年に何度も思い出します。今の私にとっては、まだまだ先のことですが、それに向って一步一歩前進していくたいと思います。



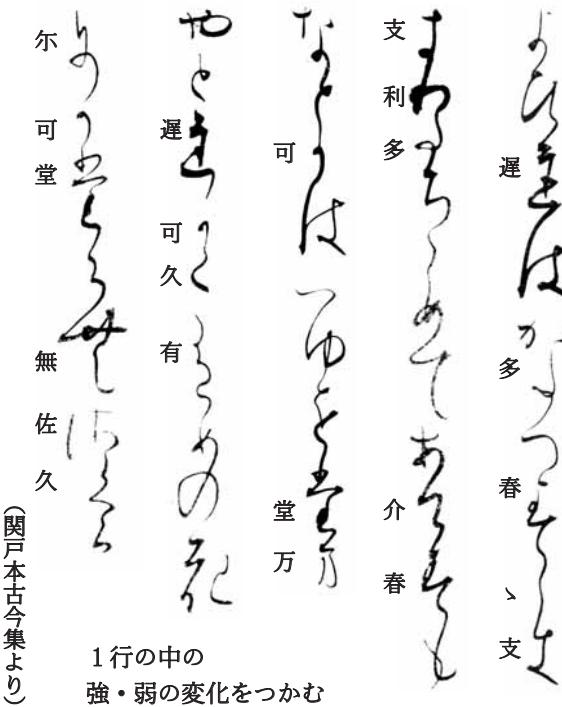
## かな基礎基本講座(13)

下谷洋子

### 行について

#### ③行の中の強弱

1行の中の疎と密に近いところもあるが、その疎密よりリズム、書き手の呼吸と関係してきます。1行を書く時、息を詰めて一気に書くのではなく、息を吸う・吐く、息を吹き込むことで、生き生きとした1行が生まれます。「高野切第三種」は、その強弱は著しくはありませんが、「高野切第一種」になると、筆者が異なることもあります。「かなり強弱は出て来ます。時代が下る「関戸本古今集」になるとさらに顕著。これは、きれいに美しく書くという貴族的なものから、書く人の気持ちを投影するようになつた変化とも言えます。ここでは、その「関戸本古今集」によって、呼吸する行をみていきます。



①写実的臨書



②発展的臨書

## 現代詩文書基礎基本講座(13)

小竹石雲

#### 【雁塔聖教序】

褚遂良 唐 653年

褚遂良の書した序碑と序記碑の総称である。国禁を犯しインドへ旅した玄奘が17年の歳月を経て、仏典を長安に持ち帰り翻訳した。太宗が序、高宗が序記を撰文した。西安の大雁塔の左側（西）に太宗の序碑（文は右起こし）、右側（東）に高宗の序記碑（文は左起こし）がはめ込まれている。

・原帖



- ①写実的臨書
- ・緩急、抑揚、強弱の変化をつけて書く。弾力で空間を大きく捉えた、軽快なリズム感が心地よい。
  - ②発展的臨書

- ①写実的臨書
- ・字形は、懷が大きく1字の中に強く書くところと、軽く書くところの虚実がある。
  - ②発展的臨書

- ・高い響きから生まれる細線は聖武天皇雑集を参考にしながら書いてみた。写実的臨書よりもスピードを加え、字形に変化を加えてみた。

# 第72回 每日書道展

主催：毎日書道会・毎日新聞社

## ●東京展

### ○国立新美術館

※毎週火曜・水曜休館または休室日

前期(Ⅰ) 7月8日(木)～7月12日(月)

前期(Ⅱ) 7月15日(木)～7月19日(月)

後期(Ⅰ) 7月22日(木)～7月26日(月)

後期(Ⅱ) 7月29日(木)～8月1日(土)

○東京都美術館＝7月18日(日)～7月24日(土)

※7月19日(月)は休館

## ●四国展

8月25日(水)～8月29日(日)／愛媛県美術館

## ●関西展

9月22日(水)～9月26日(日)

第一会場 京都市京セラ美術館

第二会場 日図デザイン博物館

第三会場 みやこめっせ第二展示場

## ●中国展

8月17日(火)～8月22日(日)／広島県立美術館

## ●北陸展

8月22日(日)～8月26日(木)／富山県民会館

## ●九州展

10月19日(火)～10月24日(日)／大分県立美術館

## ●東北仙台展

9月10日(金)～9月15日(水)／せんだいメディアテーク

## ●北海道展

9月22日(水)～9月26日(日)／札幌市民ギャラリー

## 役員展

9月22日(水)～9月26日(日)／大丸藤井セントラル

## ●東北山形展

10月20日(木)～10月24日(日)／山形美術館

## ●東海展

8月24日(火)～8月29日(日)／愛知県美術館ギャラリー

# 書道芸術院秋季展

●書道芸術院役員 ●審査会員選抜 ●審査会員候補公募

会期／令和3年10月5日(火)～10日(日)

10時～18時(最終日は17時まで)

会場／セントラルミュージアム銀座

東京都中央区銀座3-9-11 紙パルプ会館5階

TEL. 03-3546-5855

## 〈併催〉「書道芸術院の書・推薦作家」展

(15名出品)

会場／アートサロン毎日

東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル1階

TEL. 03-3212-2918

主催＝(公財)書道芸術院

後援＝毎日新聞社 (公社)全日本書道連盟 (一財)毎日書道会

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7 東神田プラザビル3階

TEL. 03-3862-1954

※審査会員候補作品締切 8月5日(木)必着

誕歎應期。伊昔桓武。並美司徒。恭惟我君。世監秘書。



(掲載図版・50%に縮小)

古典鑑賞  
北魏 鄭道昭



433

〈解説〉中国・六朝時代とは、魏・吳・蜀の三国時代（220～280）から隋が統一王朝を建てる（589）までの南方六王朝と、北方各王朝をあわせた「魏晋南北朝」の時代を指す。書道史上の「六朝の書」とは、この時代に北方で勢力を誇った北魏時代のものである。

この北魏時代の書を代表するものに、龍門造像記や鄭道昭の磨崖碑などがあり、断崖に掘られた洞窟の壁面や、高く切り立った岩山などに文字が刻まれている。

これらの北魏の書からは、初唐時代の整然とした楷書とは違った素朴な文字造形や、荒々しさ、力強さなど、野趣あふれる美しさを感じ取ることができる。

（編集部）

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨（押印のみも可）

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可)  
(B. 小品の部—半切以上半切以内・全紙1/2(約68×68cm)以内も可(縦横自由)) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

こうやきれいさんじゅ  
高野切第三種  
(京) 紀貫之

かな研究部臨書課題  
特別研究部臨書課題

B.A.

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)  
別紙を裁断して貼付也可。半纏紙は半紙サイズに切って使用のこと。  
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨也可)  
小品の部は毎日展審会員サイズ以内、2×6尺・全紙也可  
大作の部は毎日展審会員サイズ以内、約68×68cm以内も可(縦横自由)  
△当該古筆の左記掲載部分以外も可。✓

(掲載図版・75%に縮小)

（よみ）  
ひとしじずおもふこゝろはゝるがすみ  
たちでゝぎみがめにもみえなん  
うたをめしけるときに、たて  
まつるとて、よみておくにかきつ  
けてたてまつりける

伊勢

やまがはのねとにのみきくもゝしき  
をみをはやながらみるよしもがな  
毛可那

（解説）「高野切第三種」は、整

た平明な字形と暢達した筆線に特  
徴があり、筆者は三人の中でも最  
若い書き手であったと考えられる。

同筆の古筆遺品として伝えら  
れているものに、①「粘葉本和漢

朗詠集」(宮内庁三の丸尚蔵館藏)  
②「近衛本和漢朗詠集」(陽明文

庫藏) ③「元暦校本万葉集卷第一」  
(東京国立博物館藏) ④「蓬

萊切」(五島美術館ほか蔵) ⑤「法輪寺切本和漢朗詠集」(東京国

立博物館ほか蔵)などがある。

(編集部)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書し  
ましよう。

※落款を必ず入れる。  
○○臨(押印のみも可)

やまがはのねのみよとよ

伊勢

(個人蔵)

夜眠  
日走

(普灯錄)

(よみねりひに走る)



参考作品

「その時に応じて為すべきことをする」が語句の意味です。周の金文を基に書きました。篆書(甲骨文・金文・小篆・印篆など)作品の制作には、専門の字典で校字し、藏锋・中锋の筆法、左右相称・等分割など、楷行草書とは異なる書法の学習が必要です。古人の造字感性に触れ、漢字の成立を考察して下さい。尚、「眠」字は篆書、隸書では「瞑」字を作ります。左は、行書で書きました。

夜眠 日走 よみ (夜眠り日に走る)

書体=自由



習い方解説(三)

千葉蒼玄

崇山峻領  
(崇山峻領)

\*たかい山、すぐれたみね

これも蘭亭叙の中からの対句、  
茂林脩竹と続く。田舎の自然が見  
えてくるようだ。造像記は唐の時  
代の完成された書体から見ると、  
縦横の線の角度太さに統一性がな  
く粗削りに見えるが、それだけに  
野性味を持った力強さが魅力であ  
る。漢字作家の中にはこの造形に  
魅了されている人も多い。三角形  
の線と反り返るような背勢に気を  
付けて書いてみた。

〈造像記〉



〈訂正とお詫び〉

5月号(721)漢字規定の予告に  
誤りがありました。訂正しをお  
詫びいたします。

× 崇山峻領 → ○ 崇山峻領

崇山峻領 よみ(崇山峻領)

書体=楷書

崇山峻領

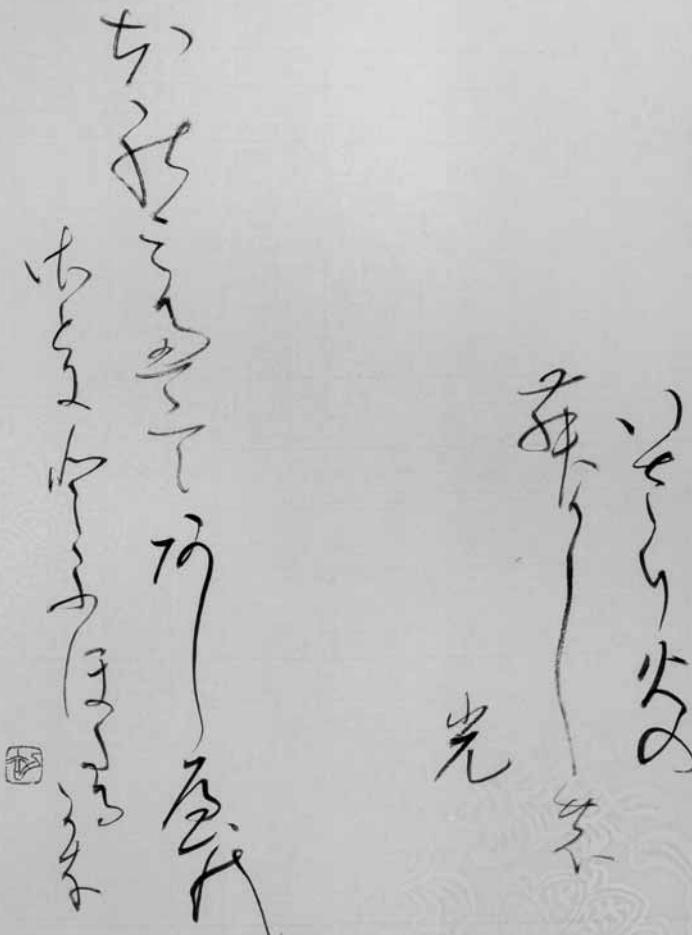
習い方解説(三)

勝山初美

いさり火の昔の光ほの見えて  
あしやの里にとぶ蟹かな  
(藤原良経)

かな作品は変体がなや連綿を用い  
優雅さや流れを表現します。漢字も  
使いますが、かなに調和しやすい書  
体を選ぶ事が大切です。省略しきぎ  
ると変体がなどの区別がつきにくく  
なります。

かなも線が大事ですが、構成も重  
要です。行間・一行の疎密などに配  
慮して、自分なりの作品創りをして  
下さい。左行頭の渴筆部は線が痩せ  
ないよう、運筆の速度に留意しましょ  
う。



創作

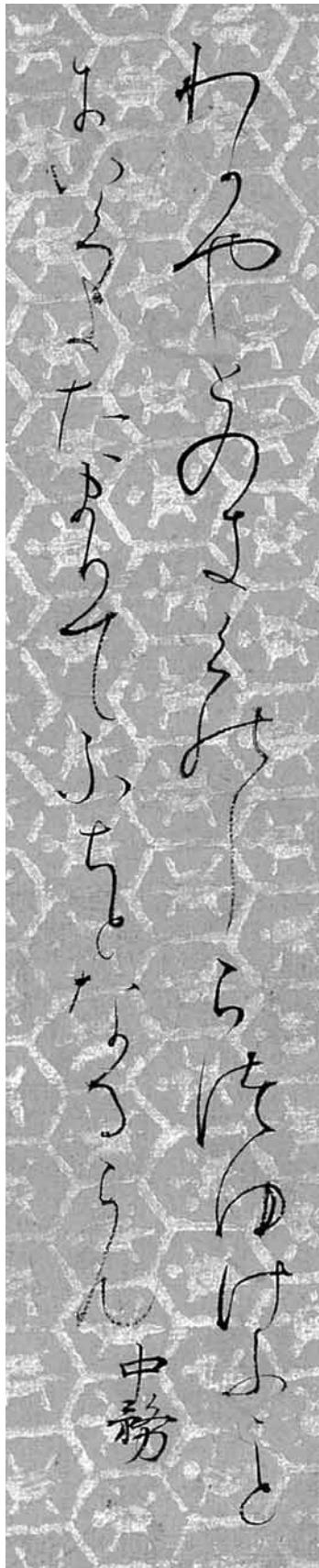
\*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)  
を使用しましょう。

よみ方 いさり火の昔(舞可し)の(農)光(ほ)(本)の(能)見(三)え(盈)て(天)  
あ(阿)しや(屋)の(能)里(佐)と(尔)と(登)ぶ蟹(ば多る)か(可)な(奈)

かな規定 秀級以下【七月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

(掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上)の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大120%)



よみ方 わが(田)やど(き)(支)く(久)の(能)しらつ(徒)ゆけふごと  
に(尔)いく(久)よたまり(利)てふちとなるらん中務

かな条幅規定【七月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

善養寺紅風選書

### 習い方解説 (三)

善養寺紅風

水無月の木陰によれば落葉かな  
(渡辺水巴)

みなづき  
こかげ  
おれば  
おひば  
おひば

俳句は、文字数が少なく配字に



よみ方 水無月の木陰(可希)に( )よれば(盤)落(於ち)葉かな(奈) 水巴の句

創作

余白を生かして作者名を入れました。大きさに注意しましょう。

\*タテ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 [七月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

辻元大雲選書

### 習い方解説 (三)

辻元大雲



書体=自由

夏の雰囲気を感じさせる句です。  
窓外の竹の影が机上に映り、庭の  
泉のせせらぎが硯面に響いてくる。  
心静かな書斎の風情ですね。書室  
で無心に墨を磨り、筆を執る。こ  
んな心境になれませんか。

今回は行書をベースに草書をア  
レンジします。草書の変化ある  
表情を活かしましょう。

\*タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下 [七月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

### 習い方解説 (三)

半田 藤 扇



書体=自由

今月の作風は、摩崖碑（自然の  
崖を利用して刻した文字）を参考  
にしました。中国に訪れた方は、  
山東省の雲峰山・天柱山・太基山  
の雄大なスケールを想い出して下  
さい。その特徴は横に広がり、ゆ  
るやかなうねり、粘りで送筆。転  
折の筆使い、藏峰など大きなリズ  
ムではないでしょうか？

\*羊毛筆を使用

溫良恭儉讓  
(論語)  
(温良恭儉讓)

川村美泉

螢のやどは川ばた楊  
楊おぼろに夕闇寄せて

川の日高が夢見る頃は

ほほほたるが灯をともす

唱歌「螢」美泉書

子供の頃、竹ぼうきとカゴを持って螢を取りに行つたことを思い出し、この唱歌を選んでみました。

漢字の行書は、いろいろな続け方がありますので、流れのあるペン使いを心がけてください。かなは、「高野切第三種」などを参考にしてみましょう。

ペンを持つ時、緊張すると動きが小さくなるので、息をしっかり吐きながらゆったりした作品を目指しましょう。

螢のやどは川ばた楊  
楊おぼろに夕闇寄せて  
川の日高が夢見る頃は  
ほほほたるが灯をともす

唱歌「螢」

◇用紙 市販ハガキまたは私製のハガキ大(4.8×10cm)の白紙を使用  
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

「注意!! 用紙の大きさにてはづきが見られます。  
用紙サイズ(4.8×10cm)を守って下さい。」

侍史 机下 入梅 紫陽花が雨に  
侍史 机下 入梅 紫陽花が雨に  
降り続く雨に青空が恋しくなります  
降り続く雨に青空が恋しくなります

岩垣若翠

(楷書) 侍史 机下 入梅 紫陽花が雨に  
(楷書) 降り続く雨に青空が恋しくなります

(行書) 侍史 机下 入梅 紫陽花が雨に  
(行書) 降り続く雨に青空が恋しくなります

基本用語 「侍史」宛名の左下に付ける敬称。「机下」宛名の脇に書く敬称。「案下」なども。

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本95%に縮小)  
◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可  
◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

# ホープ作品

## 各部総評

No. 720



漢字部 師範 中島 藤邑  
ねばり強い筆致でバランスよくまとまった作。落ち着いた雰囲気が安定感を生む。落款さらに工夫を。  
◎漢字部総評 上級課題は書体書風の変化ある作が多かった。下級の楷書も同様であるが、基礎力の養成としての努力を。（大雲評）



漢字条幅部 師範 富原 扇水  
ゆったりとしたリズムが心地よい。字形も端正。柔軟で温かみのある線は上質。技量の高い作品。  
◎漢字条幅部総評 上級は行草作品が多く見られた。表現は多彩で見応えがあった。落款に巧拙の差が出る。研究が必要。（萬城評）



前衛書部 特選 遠藤 和香  
淡墨の墨色美しく、墨だまりも効果的に立体感を出している。左から右に流れるシャープな線が多い。  
◎前衛書部総評 墨色の妙や巧みな構成を活かした独創的な作品が多く、今後も期待大。（撲韻評）

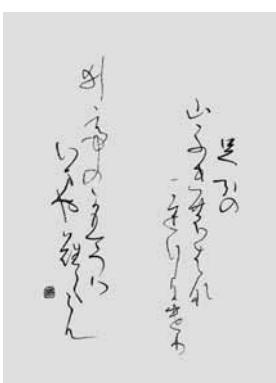


現代詩文書部 特選 原沢 雄一  
表情豊かな切れのある強い線とテンポのある運筆リズムにより、英字と漢字、かなの調和に成功す。  
◎現代詩文書部総評 楽しんで書いた後には、狙いを明確化した作品作りを奨めたい。（岳峰評）



かな条幅部 師範 阿久澤隆華  
軽快な運筆でリズミカル。筆鋒利かせて、墨の潤滑、余白の美しさもあり見事な作品となった。

（東舟評）



春高楼の花の宴  
めぐる盆影ナーネ  
千代の松が枝わけ出で  
むかーの光今いづこ  
唱歌、荒城の月、三千代書 開

◎ペン字部総評 全体的によい構成の作が多かった。流れで書いて「ぐ」や「づ」の濁点をつけ忘れたもの散見、確認を。（豪峰評）  
◎ペン字部総評 全体的によい構成の作が多かった。流れで書いて「ぐ」や「づ」の濁点をつけ忘れたもの散見、確認を。（豪峰評）

紙面構成見事で、滑らかな線質が穏やかな雰囲気を醸し出し、魅力度な作となつた。

漢字条幅部 師範 富原 扇水  
ゆったりとしたリズムが心地よい。字形も端正。柔軟で温かみのある線は上質。技量の高い作品。  
◎漢字条幅部総評 上級は行草作品が多く見られた。表現は多彩で見応えがあった。落款に巧拙の差が出る。研究が必要。（萬城評）

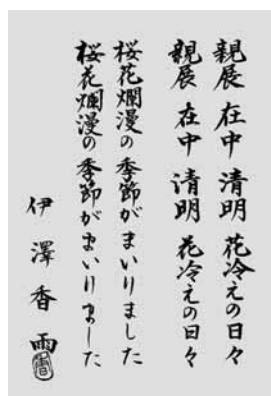
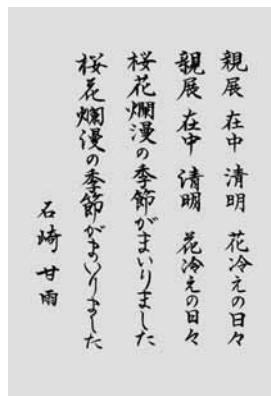
# 実用書優秀作品

## 選評 三浦 鄭 街

### ◎実用書部總評

全体の構成、行立てがしっかりしている作品が多くた。入選以上と選外との差は落款（氏号）の書き方の違いであると感じた。落款さらに工夫を明るくゆとりのある作品となつた。

（鄭街評）



|    |     |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |     |    |
|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|-----|----|
| 天幕 | 小紅正 | 東仙 | 八街 | 惠竹 | A  | 大天 | 千葉 | 水華 | 文筆 | 芳蘭  | 深大 | 氷壑  | 誠和 |
| 満張 | 映瑤華 | 佳作 | 美泉 | I  | 雲  | 章  | 葉  | 茎  | 筆  | 蘭   | 大  | 石崎  | 八街 |
| 栗  | 加瀬  | 作  | 高鈴 | 大日 | 渡邊 | 横山 | 藤村 | 波中 | 里竹 | 佐久間 | 岩崎 | 多胡  | 伊澤 |
| 木  | 木原  | 作  | 橋  | 向  | 横山 | 中野 | 村  | 浪  | 野  | 間   | 石毛 | 三千代 | 甘雨 |
| 賢  | 美帆  | 作  | 明  | 日向 | 明  | 星子 | 昌子 | 翠  | 蘭  | 登子  | 喜蘭 | 美梢  | 春香 |
| 琴  | か   | 真帆 | 香  | 香玲 | 信代 | 蘭  | 昌子 | 舟  | 昌  | 喜蘭  | 峰  | 峰   | 雨  |
| う  | 華蘇  | か  | 芳  | 秀苑 | 大  | 生  | 墨  | た  | 大  | 雲   | 松村 | 八   | 桜草 |
| る  | 無   | か  | 蘭  | 云  | 雲  | 大  | 縁  | か  | 雲  | 扇   | 翠  | 街   | 仙  |
| 仙  | 門   | か  | 仙  | 門  | 大  | 高  | 高  | 大  | 竹  | 大   | 松  | 小   | 楓會 |
| の  | 佐   | か  | 佐  | 佐  | 雲  | 太  | 太  | 浮  | 雲  | 雲   | 村  | 翠   | 八  |
| 差  | 坂   | か  | 坂  | 坂  | 藤  | 及  | 及  | 岩  | 貝  | 扇   | 井  | 柳瀬  | 街  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 木  | 場  | 原  | 原  | 磯  | 貝  | 大   | 新井 | 吉田  | 大  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 雲   | 井  | 田   | 苗代 |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 扇   | 松  | 藤   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 大   | 本  | 瀬   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 雲   | 田  | 吉   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 扇   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 大   | 新井 | 田   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 雲   | 井  | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 扇   | 松  | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 大   | 本  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 雲   | 田  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 扇   | 井  | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 大   | 新井 | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 雲   | 井  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 扇   | 松  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 大   | 新井 | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 大   | 新井 | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 雲   | 井  | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 扇   | 松  | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 大   | 新井 | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 大   | 新井 | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 雲   | 井  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 扇   | 松  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 大   | 新井 | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 大   | 新井 | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 雲   | 井  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 扇   | 松  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 大   | 新井 | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 大   | 新井 | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 雲   | 井  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 扇   | 松  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 大   | 新井 | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 大   | 新井 | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 雲   | 井  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 扇   | 松  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 大   | 新井 | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 大   | 新井 | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 雲   | 井  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 扇   | 松  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 大   | 新井 | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 大   | 新井 | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 雲   | 井  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 扇   | 松  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 大   | 新井 | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 大   | 新井 | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 雲   | 井  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 扇   | 松  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 大   | 新井 | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 大   | 新井 | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 雲   | 井  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 扇   | 松  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 大   | 新井 | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 大   | 新井 | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 雲   | 井  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 扇   | 松  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 大   | 新井 | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 大   | 新井 | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 雲   | 井  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 扇   | 松  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 大   | 新井 | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 大   | 新井 | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 雲   | 井  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 扇   | 松  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 大   | 新井 | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 大   | 新井 | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 雲   | 井  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   | か  | 篠  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 上  | 貝  | 扇   | 松  | 瀬   | 島  |
| れ  | 佐   | か  | 佐  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 石  | 貝  | 大   | 新井 | 吉   | 島  |
| れ  | 木   | か  | 木  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 原  | 貝  | 雲   | 井  | 瀬   | 島  |
| れ  | 加   | か  | 加  | 藤  | 合  | 田  | 田  | 須  | 貝  | 扇   | 松  | 吉   | 島  |
| れ  | 篠   |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |     |    |



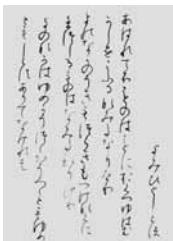
大作の部

臨書  
(大雲) 鶯山美梢 「鄭羲下碑」



吉瀬彩雨臨

68×138cm



部分拡大

鷺山美梢臨

公諱羲字幼驥司州熒陽開封人也肇洪源於有周胎母弟以  
命氏桓以親賢司徒武以善職並歌繙衣之作誦乎并世降遠  
于漢鄭君當時播節讓以振高風大夫司農創解詰以開經義  
亟刊勗史美灼二書德音雲飆碩譽長烈揚州以十策匡時司  
空豫州以勲德著稱高祖略恢亮儒素味道居真州府招辟莫  
之能致值有晉弗覽若道陵夷聽曜定劉避地莫方隱括求全  
靜居自逸屬石氏勃興機亂起正徵給事黃門侍郎遷侍中尚  
書贈揚州刺史曾祖裕以明哲佑世後燕中山尹太常卿濟南  
真公祖溫道協儲端佐燕太子瞻事父暉  
鄭縣志下碑  
美捐贈

166×70cm

◆円筆によるゆつたりと大らかな  
趣をよく表現。  
ほぼ原寸大の臨  
書作。集中力を  
持続しての作品  
制作に敬服。

(青簾評)

一題為唐詩者情何直寫春愁譜  
生平傳得近少之產而遺失猶甚實後  
以晦不發脩然告二石壁一推案未就

漢字(粹仙) 藤井龍仙「孤花」

藤井龍仙書

◆直線のリズムを生かし、強靭な紙面にくい込む筆致と破筆、渴筆による変化が動きを与えていた。（大雲評）

(大雲評)



書紅彩野淺

58×178cm

◆獨得な縮墨の妙。横二三の集団が響き合ひ、余白も美しい。中央部の書線の変化が絶妙で目事。落款の位置一考を要す。

|           |
|-----------|
| 創作の部(43点) |
| 漢字 — 5点   |
| かな — 6点   |
| 現代 — 12点  |
| 前衛 — 20点  |
| 臨書の部(23点) |
| 漢字 — 20点  |
| かな — 3点   |

| 創作の部(43点)    |  |  |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--------------|--|--|--|--|---------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 漢字           |  |  |  |  | かな      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 前衛           |  |  |  |  | か - 6点  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 現代           |  |  |  |  | 現 - 12点 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 前衛           |  |  |  |  | 前 - 20点 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 臨書の部(23点)    |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | か - 20点 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| かな           |  |  |  |  | か - 3点  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| <b>総出品点数</b> |  |  |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 66点          |  |  |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|              |  |  |  |  |         |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 〈特選候補者〉      |  |  |  |  | 〈創作の部〉  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| (創作の部)       |  |  |  |  | (創作の部)  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字      |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 漢字           |  |  |  |  | 漢字</    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

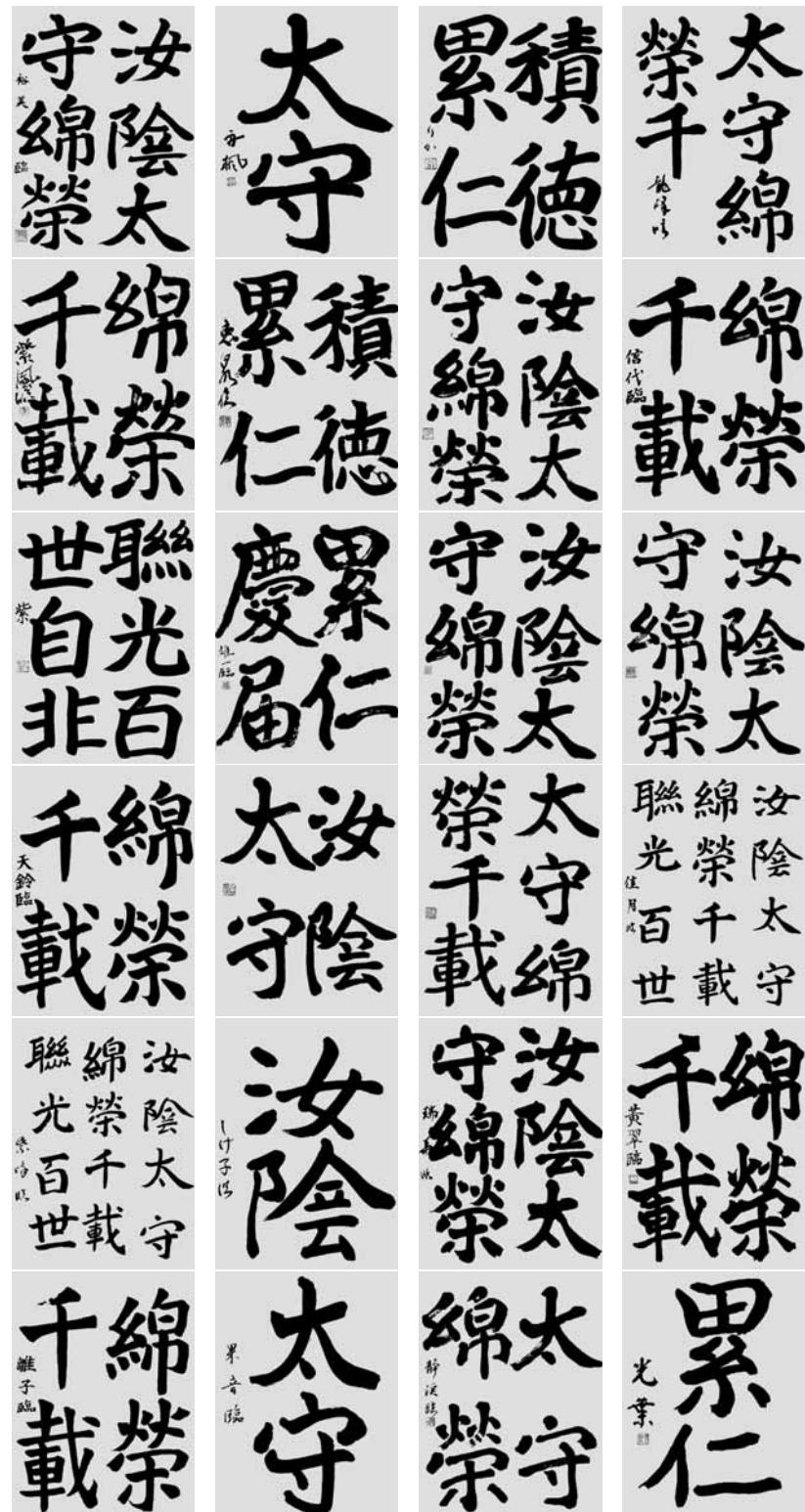
漢字研究部  
(鄭羲下碑)

選評 辻元大雲

今月のホープ作品



井上花香



雛紫天  
子峰鈴

果しこ  
音子

一雄  
隅一

瑞美  
華艸

漢字研究部 特選 井上花香  
楷書古典の基本として唐代の四大家に並び、北魏の書が取り上げられる。方筆の代表としての龍門二十品に比肩して、円筆の雄、鄭道

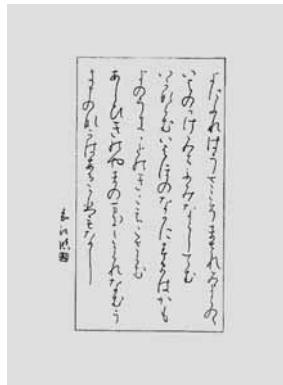
◎漢字研究部総評  
鄭羲下碑の特徴をよく観察し、直筆中鋒の運筆の技法も会得出来ている。6文字の配字のバランスも全体とよく調和している。落款を含め気配りのゆき届いた佳作である。

昭の諸碑が存在する。中でも今回の鄭羲下碑はその代表である。ゆったりと落ち着いた中に骨格の厳しさを藏し、滋味溢れる楷書である。応募作は100点余と多く、関心の高さを物語る。全体として形にとらわれて肝心の骨格の不安定な作が多くかった。「綿」の糸偏の下部は判然としないが、両方共可とした。異体字か碑面の欠損か判断に迷う。

か な 研 究 部  
(高野切第三種)

選評 大辻 多希子

今月のホープ作品



小林嘉江

**かな研究部 特選 小林嘉江**  
特徴を良く捉えて穩やかに書かれています。習熟し安定した筆法は、墨量の変化が自然で流麗です。連綿線も鋒先が利いてゆるぎないリズムがあります。

かな研究部成績表

幹和良  
生子泉

龍杏雅  
自邑泉

香由和  
紀舟子子

佳寿  
朗美子  
惠

秀誠和光玉彩松

A 紅東白高大蘭鼎 露真雲 塙和書泉 潤音風月  
I 月泉草上風清月 潤音風月

青木川浅池  
木田入谷川  
葵郷みな汀  
信子花悠代  
千佳原梅津  
野千鶴子虹祥

生松富島松廣磯林新七安小新飯後櫻藤嘉須田清境  
方津山村瀬貝井五藤峰高田藤田橋田代水田由  
由美代芝陽幸清雅藤和美加惠幹和良泉自  
子子香子香子香子雪美妙子生子生子由  
作 (60首)

華祥仙橋紫月如京文筆生

書海島千有大雲素大漢歐か雲漢和真草書泉月露か紅嶺習練I

柳瀬山田吉田貫綿作(50首)  
奈津京智子佑子

安森三松松本堺古原浜濱根二中武高島椎猿驚坂小高刑菊菊川加小  
鷗田浦丸浦田江谷澤野田岸通村村井藤名渡山本松武部地本藤  
眞由外沙龍道愛玉美幸美典永陽正麗寛一松美光篠美芳惠玄裕泰南翠  
博子石江雪泉子子篤一子子子琴汀姜美子子右裕博子城美峰江陽

松村 白紅珠瑤 櫻草 入

高竹あ中上大祥誠掃華は上高書大秀も玉清桜高菊八蘇四竹澄樹”大う英蘭大清正渡誠橋八和A誠森こ水高清  
綺美か川泉雲紫和雪祥せ泉崎泉雲水く松月草崎月雲我谷美春原”雲る峰鼎雲月華辺和雅街平I和地だ海崎月

山田久美 邊(50音圖)

矢八本三本堀藤福福権長萩根永中富戸田竹高神島七佐佑櫻齋紺黒草木吉川河金加大鶴伊井井伊石池五飯飯飯  
口木吉田多切田原富口谷原本井林澤部中澤橋宮條藤藤田藤野柳刈村瀬崎合子瀬沢澤与ノ上藤崎田十泉島島  
橋理登記明蒼和幸雅里牧玉久洋雅伯清慧藤耶恒美玉悦裕育詠智翠遊竹眞順彩優和つ淳翠玉春英寿甘幸佳洋津ト  
矢八本三本堀藤福福権長萩根永中富戸田竹高神島七佐佑櫻齋紺黒草木吉川河金加大鶴伊井井伊石池五飯飯飯  
口木吉田多切田原富口谷原本井林澤部中澤橋宮條藤藤田藤野柳刈村瀬崎合子瀬沢澤与ノ上藤崎田十泉島島  
橋理登記明蒼和幸雅里牧玉久洋雅伯清慧藤耶恒美玉悦裕育詠智翠遊竹眞順彩優和つ淳翠玉春英寿甘幸佳洋津ト

夜月利城  
土正澄竹春明八

大玉硯春大蕙高う黎赤大た高竜一祥華東梓土樹青白澄も正玉四中一白葛 „澄た竜誉蘭華日堺有大生た澄仙

生漢行原春華又

佐佐佐佐佐坂酒齋小小小木呉工北木蒼川川葛鹿貝小岡岡大大大遠江宇宇植岩今今市板石石生新雨阿熱

田惠美子  
与称子  
田加代子

幸や仙夏士

書祥紫  
華桜の松菊華墨幕長紫長椿瑞祥  
仙草の日月月桂葉宣張日月桂葉  
矯正一黎幸白青白蒼上蒼天小清た秀上四京や紅琇天正玉青上玉  
朝薫草明月靈芝斑田良田曉助日ふ散良井振ナ薫碧曉華田峰良田此

外傳 壬辰亂世

